

「計画」

日吉台小学校

令和8年度 日吉台小学校 我が校の学び力向上策

【県目標】第Ⅲ期学び力向上滋養プラン

夢と生きる力を育むために、子どもたちの主体的な活動を通して、学び力を高める。

【令和8年度取組の重点】 子ども一人ひとりの「ワクワク」する学びへ

- 発達の段階を踏まえた言語活動の充実
- 1人1台端末等の効果的な活用
- 自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

【市町の目標】

第4期大津市教育振興基本計画

「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を実践する。

【学校の目標】

- 知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましく生きぬく子どもの育成
- ・学習形態や指導方法等の工夫改善に努め、魅力ある授業づくりに取り組む。
- ・児童一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じたきめ細かな指導を推進する。

【現状と課題】

- 視点1
(1) 校内研究を通して、主体的に学び合う授業・環境づくりの実践については日々取り組んでいるが、子どもたちの主体的に学ぶ意欲をより高めていく必要がある。
(2) どの学年でも、一人一台端末の活用を積極的に行っているが、学びを深めるための活用や、紙ベースとの使い分けについては改善および検討の余地がある。
- 視点2 日々の授業や学業調査の結果から、考えや思いを「聴く力」、自分の思いを目的や意図に応じて「表現する力」に課題が見られる。また、学年が上がるにつれ人間関係が固定され、学びの深まりが生まれにくい。そのため、支持的風土のある学級づくりを推進する必要がある。
- 視点3 若手教員が増える中、研究授業以外の場でも積極的に研修や情報発信を行い、教職員一人一人の資質能力の向上を図る必要がある。

取組事項および評価指標

※評価指標には、目標値を記入してください。

(例) 県学びのアンケート(児童生徒)「わからないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、自分から取り組んでいたと思いますか」**肯定的な回答80%以上 ← 目標値**

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり

取組事項	評価指標
①校内研究を通して、「自ら問いや疑問などの『?』を持ち、主体的に学び合う授業・環境づくり」の実現を図り、学習への意欲を高める。	①学校評価アンケート「自分から進んで宿題など家庭での学習をしているか。」肯定的回答80%以上
②端末のよさを踏まえた、学びを促進し深めるための一人一台端末の使用を推進する。	②毎日1時間以上を目安とした端末利用、端末利用に関わる職員研修を年3回以上実施

【視点2】学びを支え合う集団づくり

取組事項	評価指標
①学級担任が中心となり、子ども同士がつながり、協働して物事に取り組む機会を保障する。	①友だちと協働する活動を1日1回以上実施。学校評価児童アンケート「友だちと力を合わせて活動している」肯定的回答90%以上
②価値観の違いや個性を互いに認め合えるようにするために、個々の自尊心を高める。	②学校評価児童アンケート「自分には、好きなものや得意なものがある」肯定的評価90%以上

【視点3】協働して取り組む学校づくり

取組事項	評価指標
①OJTや校内研究を中心とした研修を行い、子どものために協働する組織づくりに努める。	①OJT研修(全体)を年5回、研究授業を年3回以上実施。
②家庭や地域との情報共有を図り、互いに連携した学校教育を進める。	②学級通信の配信を週1回以上、地域と連携した学習を年1回以上実施

◇「学び力向上策」の実効性を高めるために、職員全体で共通理解・共通実践し、検証・改善していく時期や手立て等

- ・年度当初に、教育目標や校長の経営方針とともに、「学び力向上策」について全職員で共通理解する。また、取組内容を学校だより等で保護者や地域に発信するとともに、定期的に評価・見直しを行う。
- ・全員で取り組む具体的な内容について共通理解し、視点1については研究主任と教務主任、視点2については学び力向上推進リーダー、視点3についてはOJT推進リーダーと教務主任が中心となって、組織的に実践につなげる。
- ・定例職員会議では、取組の状況等を共有し、12月、2月の学校評価や、全国学力・学習状況調査等の調査における数値や意見等をもとに、改善策について研究主任、OJT推進リーダー、各教科主任等でまとめ、職員会議で共有し、後半の取組につなげる。また、それぞれの取組事項に対する評価結果を学校だよりで保護者や地域に発信する。